

～ 開国博Y150 ヒルサイドエリア「Y150つながりの森」～

シンボルコンテンツ - ①

「ヒルサイドに巨大バッタあらわる!!」に決定

横浜国立大・唐十郎ゼミから始まった異色劇団が、展示&野外パフォーマンスで環境メッセージを発信

横浜開港150周年記念テーマイベント「開国博Y150」としてヒルサイドエリアで展開する「Y150つながりの森」
<2009年7月4日(土)～9月27日(日)>。

そのシンボルコンテンツのひとつが、

展示&野外パフォーマンス「ヒルサイドに巨大バッタあらわる!!」に決定しました。

「ヒルサイドに巨大バッタあらわる!!」は、横浜トリエンナーレ2001の最大の作品「インセクトワールド・飛蝗(バッタ)」(アーティスト椿昇/京都造形芸術大学教授と情報哲学者室井尚/横浜国立大学教授の共作)と横浜国立大学・唐十郎ゼミから始まった異色劇団「劇団唐ゼミ☆」とのコラボレーションにより実現した展示&野外パフォーマンス。環境問題をテーマに約50名のメンバーと巨大オブジェによるストーリーを展開する。『唐ゼミ☆』が得意とする野外演出に加え、全長約50m・高さ約15mの巨大バッタが膨らむ・しぼむ過程を壮大なアクションとして構成することによって、自然環境と人類をめぐる闘いと融和をテーマにした一大スペクタクルを繰り広げます。

劇団唐ゼミ☆では、「ヒルサイドに巨大バッタあらわる!!」で展開する自然・環境をテーマとした人類と飛蝗(バッタ)との共生パフォーマンス「バッタが巨大だったころ(仮)」の出演メンバーの募集を始めます。

日本最大級の竹を使用した施設「竹の海原」をメイン会場にするヒルサイドエリア。「私からはじめるこれからの150年」をテーマとし、市民の手で作りに上げていく市民参加型の「市民創発プロジェクト」を中心に、「つながりのダイアログ」(さまざまな関係＝つながりを創出する有識者や著名人によるトーク&パフォーマンス)、そして「ヒルサイドに巨大バッタあらわる!!」などをシンボルコンテンツとして様々なプログラムを86日間にわたって展開します。



「ヒルサイドに巨大バッタあらわる!!」 実施概要

【日 程】 2009年7月4日(土) ~ 9月27日(日)のうち16日間

7月 : 4(土)、5(日)

8月 : 1(土)、2(日)、8(土)、9(日)

15(土)、16(日)、22(土)、23(日)、29(土)、30(日)

9月 : 19(土)、20(日)、26(土)、27(日)

【時 間】 終日野外展示
パフォーマンスを実施(開催時間未定)

【募集人数】 50名(予定)

【会 場】 ヒルサイドエリア「Y150つながりの森 いこい広場」〔有料会場〕

【内 容】 展示&野外パフォーマンス「バッタが巨大だったころ(仮)」

【ストーリー】 ヒルサイドでの突然変異によって巨大化したバッタ。
それをきっかけに、かつて地球は巨大バッタがのし歩く世界であったことが明らかになる。
誕生したばかりの人類と巨大バッタとの死闘の果てに、文明を生み出し勝利した人間たち。
そしてバッタは現在のサイズ(約3cm)へと。
その後、地球は人間が好き放題に自然を破壊する世界へとかわっていく。
エネルギーは枯渇し、海は汚れる一方、まさに狂乱の現代が訪れる。
かくて近未来。
おごれる人類に怒った地球は、バッタをかつてのサイズに戻すことで、
自分を踏み荒らした人類への警告を与えようとするのだった...

【出 演】 インセクトワールド「飛蝗」(バッタ) & 唐ゼミ☆劇団員を中心とする約50名

【制 作】 飛蝗隊(ひこうたい)(代表・室井尚/横浜国立大学教授)

【特別協力】 椿 昇 (アーティスト・京都造形芸術大学教授)
横浜国立大学
財団法人水戸市芸術振興財団

【協 賛】 広友ホールディングス

人類と飛蝗(バッタ)との共生企画

「ヒルサイドに巨大バッタあらわる!!」参加者募集

2001年に開催された第1回横浜トリエンナーレの目玉企画「インセクトワールド・飛蝗」。
8年前、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルの壁に貼り付いて、横浜の夏を席卷した
度肝を抜くほどの巨大バッタが、開港150周年記念事業に合わせて再び飛来します。
この企画の展示・運営に当たり、そこで展開される自然・環境をテーマとした人類と飛蝗(バッタ)
との共生パフォーマンス「バッタが巨大だったころ(仮)」の出演メンバーの募集を開始します。

「ヒルサイドに巨大バッタあらわる!!」 参加メンバー募集要項

【活動内容】 巨大バッタの展示・運営&野外パフォーマンスへの出演

【応募資格】 基本的に全工程に参加できる方

【上演日程】 全16日間

7月	: 4 (土)、5 (日)
8月	: 1 (土)、2 (日)、8 (土)、9 (日)
	15 (土)、16 (日)、22 (土)、23 (日)、29 (土)、30 (日)
9月	: 19 (土)、20 (日)、26 (土)、27 (日)

〈時間〉 終日野外展示。パフォーマンスを実施(開始時間は未定)。

【稽古日程】 2009年6月13日～7月3日 (予定)

【面接日】 2009年6月6日(土)、7日(日)のいずれか1日
※場所は後日ご連絡します。

【応募締切】 2009年5月31日(締切当日消印有効)

【応募方法】 お名前、年齢、住所、連絡先をご記入の上、下記に郵送、FAXまたはメールでご応募
ください。

【応募・お問合せはこちらまで】

〒240-0044 横浜市保土ヶ谷区仏向町121-5-302 劇団唐ゼミ☆ 中野敦之 (なかのあつし)
電話番号 080-3152-2675 FAX番号 045-333-7185
Eメール y150_batta@yahoo.co.jp

※ 18歳未満の方は保護者の同意が必要です。

※ 応募にかかる郵送・通信費、面接・稽古にかかる交通費等に関しては自己負担とさせていただきます。
また、出演料の支払いはございません。

※ 応募にかかる書類等は返却いたしません。また、お寄せいただいた個人情報等は本件の募集に関わる
目的以外に使用することはありません。

飛蝗隊^(ひこうたい) 代表 室井 尚 プロフィール

室井 尚 (むろい ひさし)

1955年、山形市生まれ。茨城県立水戸第一高等学校、京都大学文学部卒業。京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了。帝塚山学院大学講師を経て1992年横浜国立大学教育学部助教授に転任。現在同大学教育人間科学部教授。

主要な著作に「文学理論のポリティーケーポスト構造主義の戦略」(勁草書房)、「ポストアート論」(白馬書房)、「メディアの戦争機械」(新曜社)、「情報宇宙論」(岩波書店)、「情報と生命ー脳・コンピュータ・宇宙」(吉岡洋と共著、新曜社)、「哲学問題としてのテクノロジーーダイダロスの迷宮と翼」(講談社)、「教室を路地に！ー横浜国大v.s.紅テント、2739日」(唐十郎と共著、岩波書店)、「ケータイ研究の最前線」(慶應大学出版会)がある。

日本記号学会理事、美学会委員、国際記号学会理事。

元々の専門は美学、文学理論、現代文化論だったが、パソコン通信の立ち上げなどネットワーク・メディアに関わる中でメディア論、文化記号論、情報文化論と領域を広げている。

2001年の第一回横浜トリエンナーレでの「インセクトワールド・飛蝗」でアーティスト・デビューした。

<参考資料②>

【インセクトワールド・飛蝗について】



■横浜トリエンナーレ2001最大の作品

アーティスト椿昇と情報哲学者室井尚のコラボレーションによって作られた複数のユニットからなる総作品「インセクトワールド」は、全長50mに及ぶ巨大なバッタのバルーン「飛蝗(バッタ)」を、みなとみらい地区のヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルに取り付け大きな反響を得た。

このバルーンは電車や高速道路、遠方からもよく見え、今でも横浜市民の語り草となっている。設置にあたっては、数々の困難を伴ったが、その経過は『巨大バッタの奇蹟』(アートン新社)として公開されている。この設置作業には劇団唐ゼミ☆のメンバーも多数参加している。

【劇団唐ゼミ☆について】



■横浜国立大学・唐十郎ゼミから始まった異色劇団

10代後半～20代の若者が日本のシェイクスピアである唐十郎の薫陶を受け、これまで「アングラ」という括りで語られる事の多かった唐作品のグローバル化を目指す。

フレキシブルな青テント、自由空間としての大学に根ざした圧倒的な稽古量と強固な集団性によるアンサンブルが特徴である。

また、経営面では大学発ベンチャー事業としての側面も持ち、助成金漬けやスターシステムに拘泥している現在の演劇状況を打破すべく、次代に問うべき新たな劇団の形体、文化事業のかたちを模索する試みでもある。



<劇団唐ゼミ☆代表 : 中野敦之 (なかの・あつし)>

1981年生まれ。現在横浜国立大学大学院博士課程に在籍し、「劇団唐ゼミ☆」の代表を務める。多くの唐作品を手がけ、演劇評論家が現在もっとも注目している若手演劇人の一人である。2005年、新国立劇場のプロデュース公演にて演出を行い、朝日、読売各紙にて絶賛を受け、同時に、同劇場が取り上げた演出家として、最年少記録をうちたてた。